



個々人の多様な価値観に基づく「ありたい」未来像の 共創：第12回科学技術予測調査ビジョニング

文部科学省科学技術・学術政策研究所(NISTEP)
科学技術予測・政策基盤調査研究センター
動向分析・予測研究グループ 主任研究官
岡村 麻子

■ イントロダクション

- ◆ フォーサイトとは何か

■ 第12回科学技術予測調査

- ◆ 全体像
- ◆ ビジョニング～個々人の多様な価値観に基づく「ありたい」未来像の共創～

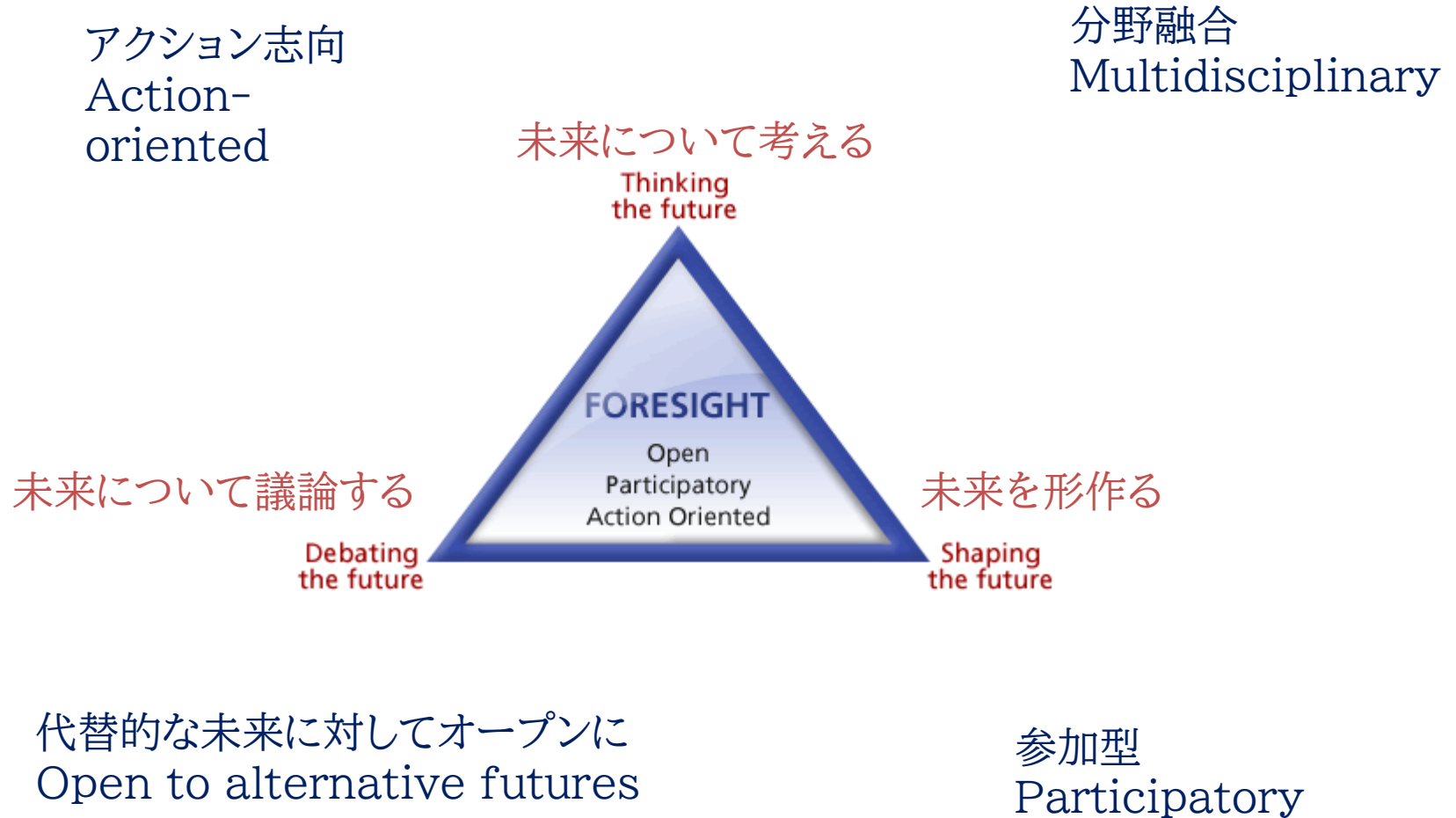
■ 終わりに



フォーサイトとは何か

未来洞察、未来予測…

フォーサイトとは何か？



フォーサイトとは何か？

その特徴は・・・

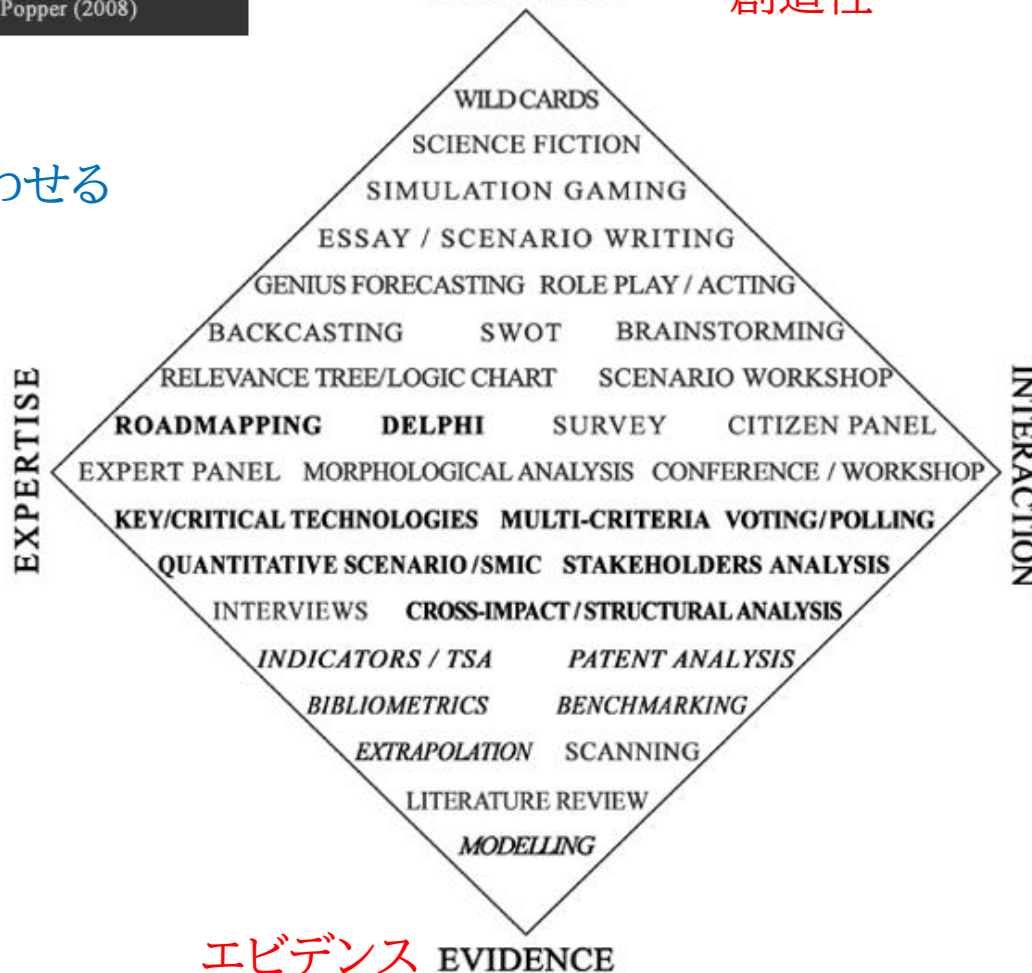
- **参加型**で**体系的**な未来情報の収集と中長期的なビジョン構築のプロセスにより、現在の意思決定に情報を与え、共同での行動を促進する。
<http://foresight-platform.eu/community/forlearn/what-is-foresight/>
- フォーサイトは、科学技術やイノベーションが社会にもたらす長期的な機会を活用することを目的として、**オープン**な考察、**ネットワーク**づくり、コンサルテーション、議論を**繰り返**しながら、未来のビジョンを共同で練り上げ、戦略を共有するプロセスである。
J. Cassingena Harper MCST <https://www.nistep.go.jp/IC/ic030227/pdf/s6-1.pdf>
- 未来を予測する(predict)ことではなく、様々な可能性のある未来を、それらがもたらすかもしれない機会や課題とともに探求すること。最終的には、望ましい未来を形成するために、現在の行動の助けとなる。**将来に備える**ためのもの。

EU-戦略的フォーサイト等

フォーサイトで良く用いられる手法

Foresight Diamond
Popper (2008)

創造性



専門性

相互作用

エビデンス EVIDENCE

QUALITATIVE SEMI-QUANTITATIVE QUANTITATIVE

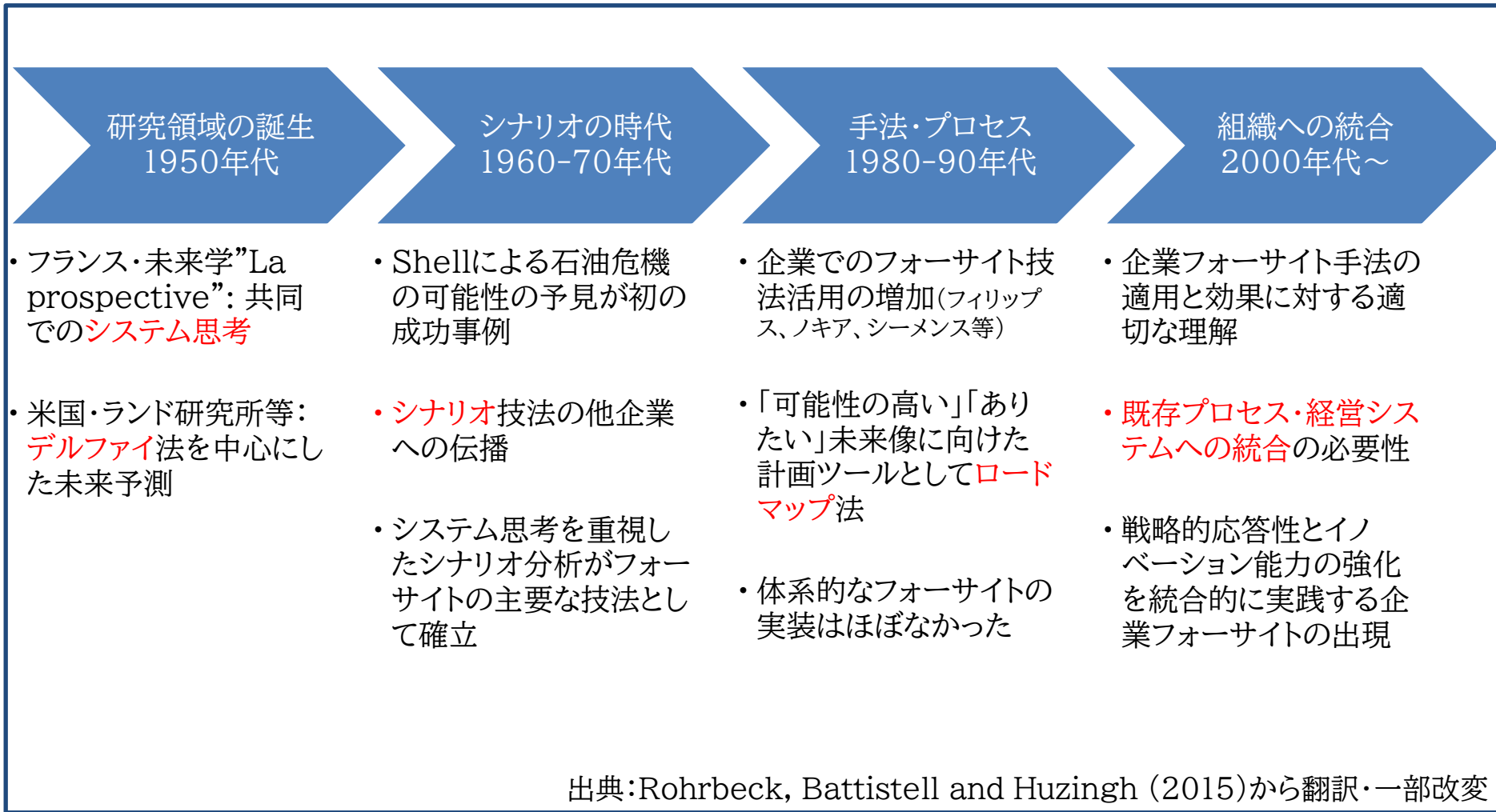
定性的

セミ定量的

定量的

手法は一つではない
目的に応じて
必要な手法を組み合わせる

フォーサイトの歴史(企業におけるフォーサイト研究の発展)



予測的傾向



多様な可能性を探る



戦略・組織運営への統合を狙った取り組み

フォーサイトの歴史(政府におけるフォーサイトの実施、初期)

年	国	調査・プログラム名	手法・方法論
1971～	日本	1 st to 4 th STA surveys 科学技術庁	科学技術 予測調査
1991	日本	5 th STA survey NISTEP	
	米国	Critical Technologies	その他
1992	ニュージーランド	Public Good Science Fund	その他
	ドイツ	BMFT, T21	その他
1993	韓国	Foresight Exercise	その他
	ドイツ	Delphi '93	デルファイ
1994	英国	1 st TF Programme	デルファイ+その他
	フランス	Technology Delphi	デルファイ
1995	フランス	100 Key Technologies	その他
...	...	...	...
2006			

* その他: シナリオ、パネル、ロードマップ、重要技術等

出典: Miles, Harper, Georgiou, Keenan and Popper (2008)を一部翻訳

このリストは2006年まで載っているが、上記以外の国では、Austria (1996), Australia (1996), Spain (1997), Hungary (1997), Netherlands (1997), Finland (1997), South Africa (1998), Ireland (1998), Sweden (1999), Thailand (1999), China (1999), Brazil (2000), Portugal (2000), Venezuela (2001), Chile (2001), Czech Republic (2001), Turkey (2002), Colombia (2002), Cyprus-Estonia-Malta (2002), Denmark (2002), Greece (2003), Norway (2003), Ukraine (2004), Russia (2004), Romania (2005), Luxembourg (2005), Poland (2006)

2010-2020年代以降は？

フォーサイトの重要性、ニーズはますます高まっている・・・

先の見通せない時代、不確実性の高まり・・・
新興科学技術の急速な発展・・・
気候変動、パンデミック、地球規模災害・・・

Policy Horizons Canada ▣ About Us ▣ Our Work ▣ Futures Week ▣ Resources



FUTURES WEEK

Government
Office for Science

The Futures Toolkit



Tools for Futures Thinking and Foresight
Across UK Government



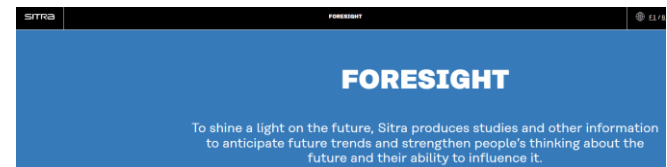
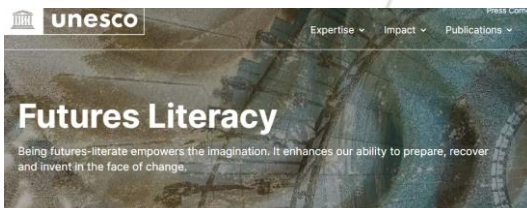
United Nations



Centre for Strategic Futures

Building a strategically agile public service ready to address a complex and fast-changing environment

STRATEGIC FORESIGHT



2010-2020年代以降は？

更なる広がり

- ・ セクター： 市民、企業、アカデミア、政府、国際機関…
- ・ 地域： 中東、アフリカ…

トップレベルの意思決定との連携・制度化-戦略的フォーサイト

- ・ EC： 欧州委員会で初代戦略的フォーサイト担当委員の任命、欧州委員長を補佐チーム、EU加盟国の未来担当大臣…
- ・ UN： 事務総長付けのイノベーションラボ(Unglobalpulse)でフォーサイトを活用…
- ・ OECD： 事務総長官房戦略的フォーサイト室…

多層的な取組み

- ・ 組織内での取組
- ・ ネットワーク化・コミュニティ形成
- ・ フォーサイト研究へのファンディング
- ・ 人材育成・教育 …

(参考)関連報告書

調査資料-320

世界のフォーサイトの動向 - コロナ禍の影響と今後の活動 -

2022 年 10 月

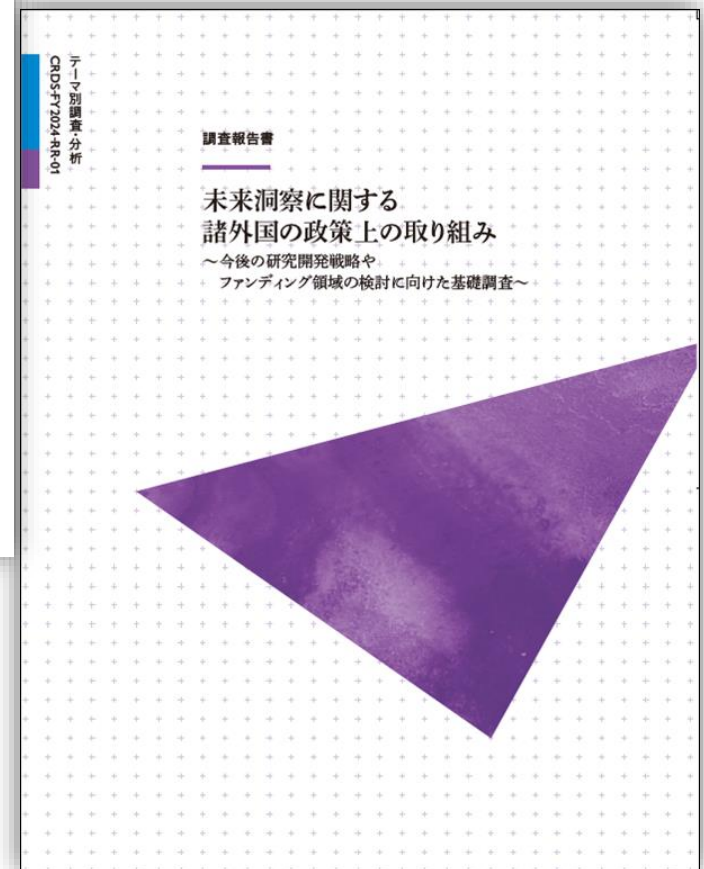
文部科学省 科学技術・学術政策研究所
科学技術予測・政策基盤調査研究センター

調査資料-332

世界のフォーサイトの動向 - 政策のためのフォーサイトに向けて -

2023 年 11 月

文部科学省 科学技術・学術政策研究所
科学技術予測・政策基盤調査研究センター





NISTEP

科学技術予測調査

科学技術予測調査の目的

- 科学技術が未来社会にもたらす様々なインパクトを踏まえた上で、
20～30年後の社会のあり方について検討
- 科学技術・イノベーション基本計画を始め、科学技術イノベーション
関連政策・戦略検討・立案のためのエビデンスを提供するために実施
 - ☞ 科学技術・イノベーションの発展の方向性や関連情報の提示
- 政策当局、ファンディング機関、シンクタンク、アカデミア、産業界等
の科学技術・イノベーション政策のステークホルダーが将来像を議
論するためのプラットフォームを提供
 - ☞ アカデミア、企業等の研究開発ロードマップへの参考情報の提供

(注) 科学技術予測調査の対象は、自然科学及び関連する科学技術に加えて、人文・社会科学のみに係る科学技術や、人文・社会科学と自然科学との融合による新たな知や価値観・社会システム等も含まれます。

参考:科学技術予測調査の歴史と変遷

科学技術予測調査は、1971年から約5年ごとに継続的に実施している中長期(30年)にわたる科学技術等の将来を展望する調査である。



第12回予測調査のスケジュール

第12回科学技術予測調査の実施

FY2022

ホライズン・スキャンニング

- ・ 社会や科学技術等の変化の兆しを捉える

ビジョニング

- ・ 「ありたい」未来像
- ・ 将来想定される個人や社会の価値観の変化

今日の内容

FY2023

トピック選定・修正・作成

デルファイ調査

- ・ 科学技術等の未来像
- ・ 科学技術に関連する社会的課題を含む

シナリオ
試行

FY2024

アンケート実施・集計

シナリオ

- ・ 日本の未来社会の姿

★ 報告書発表時期

第12回科学技術予測調査 ビジョニング総合報告書(概要)

～個々人の多様な価値観に基づく「ありたい」未来像の共創～

詳細は、下記報告書をご参照ください。

科学技術予測・政策基盤調査研究センター（2023）,「第12回科学技術予測調査 ビジョニング総合報告書～個々人の多様な価値観に基づく「ありたい」未来像の共創～」, NISTEP RESEARCH MATERIAL, No. 331, 文部科学省科学技術・学術政策研究所.

DOI: <https://doi.org/10.15108/rm331>

調査資料 - 331

第12回科学技術予測調査

ビジョニング総合報告書

～個々人の多様な価値観に基づく「ありたい」未来像の共創～

2023年9月

文部科学省 科学技術・学術政策研究所
科学技術予測・政策基盤調査研究センター



ビジョニング

「ありたい」「望ましい」未来の探索

ビジョンとは何か

- ビジョン

- 「望ましい未来」「未来のポジティブなイメージ・願望」「未来においてどこにいたいか」

- 「良い」ビジョン

- 共に創られたもの
- 信頼できる
- 挑戦的である
- 未来指向である
- タイムホライズンが明確である
- 理想的である
- 参加を促す、モチベーションをあげる
- 明確である
- 安定的である
- 達成可能であるという印象を与える

価値観

共創

何故ビジョンは 今日必要とされ ているか？

- 変化を牽引する、源泉としてのビジョン
- 多様化する価値観やAI等の急速な発展の中で、我々が真に望む社会はどのようなものか



目的:

- 「ありたい」「望ましい」未来社会像を、個人及び社会の**価値観**を考慮しながら、**共創的**に描くこと

対象:

- 広く一般市民及び社会を牽引する強い個人力を持つビジョナリー
- 特に、20～30年後に社会で主要な役割を果たすことが期待される**若者世代の声**をできるだけ多く捉えた
 - ◆ 前回迄のビジョニング調査は、主に研究者を対象としたものであり、起こりうる社会的・技術的变化をベースとして社会像を抽出した点が異なる。

特徴:

- 未来に対する社会の**多様な想い・声**を**ボトムアップ**的に捉えて可視化
- 科学技術の観点だけにとらわれない
- ここでの目的は、科学技術専門家の知見や各種未来情報により「起こりうる」「もっともらしい」未来像を導き出したり、設定された未来像から将来に向けて必要な方策を導きだしたりすることでは**ない**

第12回調査 ビジョニング全体設計(2022年度)

国内外のビジョナリー調査

国内外のビジョナリーのリストアップ及び言説概要作成。
一部ビジョナリーへのインタビュー調査実施。

28名

ビジョナリー
のビジョン

市民へのアンケート調査

一般市民が描く未来(2045/55年頃)のビジョンに関するアンケート調査を実施。

160名

市民の
ビジョン

国際ワークショップの開催

政策立案において将来ビジョンを有効に活用するための手法や実践における課題を、欧米、日本、アジア諸国のフォーサイトの実務家及び研究者間で共有(EU-JRC共催)。

ビジョニング
へのヒント

ビジョニング手法の調査

国内外のフォーサイト活動におけるビジョニング手法とケースについて学び、得られた知見を国内ワークショップの設計に反映できるように調査を実施。

調査した手法をWSの設計に反映

国内ワークショップの開催

10～20代の若者や、すべての世代の市民が参加する、2045/55年のビジョン形成のためのワークショップを2回開催。

69名

多世代のビジョン

ビジョンの統合・構造化

ワークショップ、ビジョナリー調査、市民アンケート調査の結果を整理・統合し、多様なビジョンを構造化。

延べ260 名程度 (※) の意見を集約

(国内ワークショップ参加者、市民アンケート調査回答者、ビジョナリー・インタビュー対象者、ビジョナリーの活動・発言内容収集の対象者等)

※男女比は全体でほぼ同等(その他・回答しないは4%程度)。
年代構成: 20代が最も多く(40%弱程度)、30代(20%弱程度)、40代(15%程度)、10代と50代がそれぞれ10%程度。60代及びその他(70代以上含む)・回答しないはそれぞれ5%程度。

若者世代ワークショップ



ハイブリッド WS



対話



未来へのタイムライン

Future Scene Sketch

Title - あなたが望ましいと思う2045/55年の未来の暮らしの姿、方向性を一言で表すと？

世代間ギャップのない社会

Future Scene - 未来の暮らし

Future Scene Sketch

Title - あなたが望ましいと思う2045/55年の未来の暮らしの姿、方向性を一言で表すと？

未知と共感が共にある未来

Future Scene - 未来の暮らしの姿の情景 (イラストや動画、写真等)

「ムダ」こそ「豊かさ」

Future Scene - 未来の暮らしの姿の情景 (イラストや動画、写真等)

30の未来シーンのスケッチ

家の中

What - 望ましいと思う未来の暮らしと現在の違いは？

事務的なムダをAIやロボットに任せて、人生の豊かさ・生きがいにつながるムダを人間が全力で楽しむ。現在と真逆！！

編集後記 - このシーンに込めた思い、特に強調したいポイントは？ 次世代の人やモノや環境に対してどんな影響を与えたい？

自分のために生きられるAIなどの技術の使い方。ライフスタイルを貫く。

© 2022 Future Scenarios Inc.

全世代ワークショップ



対話



ギャラリービュー



未来セッションの発展と学びに促される社会
人のポテンシャルを活かし広げる、想定外に遭遇できる社会

42の未来シーンのスケッチ



市民へのアンケート調査

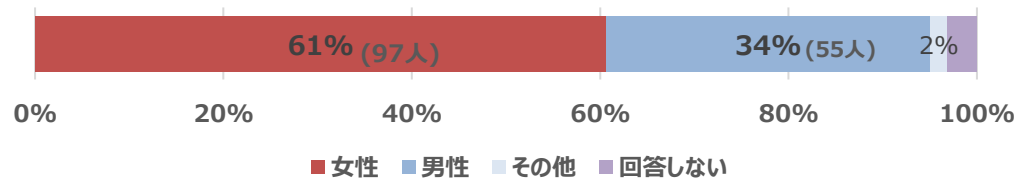
概要

- 目的：市民が未来の暮らし・社会に対してどのような想いを抱いているかについて情報を得る
- 対象：市民一般、年齢・国籍等問わず
- アンケート実施期間：2022年11月11日～2023年1月24日
- 有効回答数：160件
- 方法：オンラインアンケート(自由記述主体)

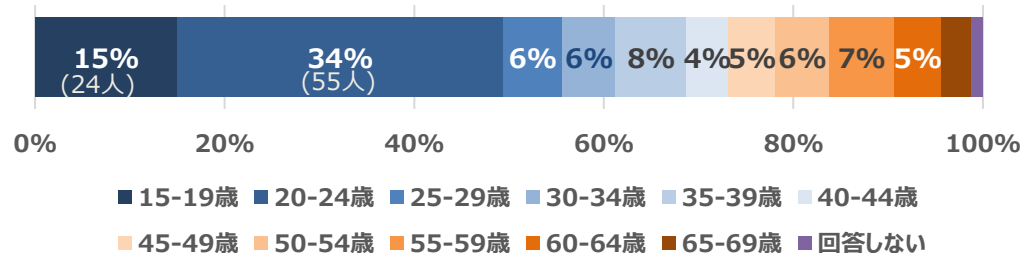
主な質問

- 2045年から2055年頃の未来社会がどのようなものになっていると思いますか？想像力・空想力を駆使して、未来の日常のある場面について、あなたの言葉で説明して下さい。
- あなたが想像した未来の日常において、あなたはどのような感情を抱いていると思いますか。(選択肢)
- あなたが想像した未来の日常は、あなたの現在と比べてどうなると思いますか？
- あなたが想像した未来の日常では、今の社会にはない新たなテクノロジーが登場しているでしょうか？

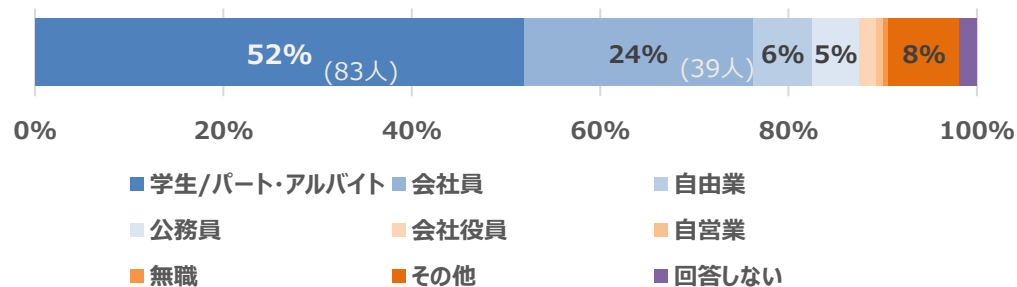
回答者性別



回答者年齢



回答者職業



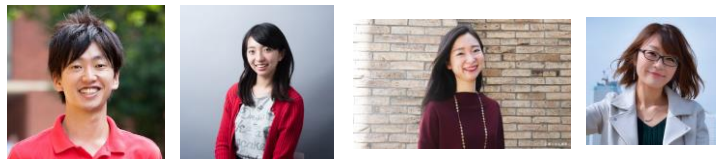
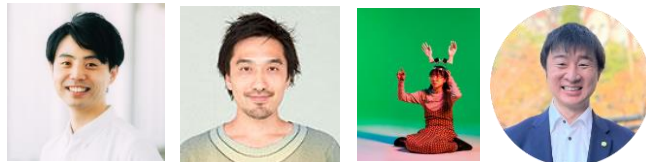
国内外のビジョナリー調査

プロセス

- 未来社会を牽引することが期待される個人や、今後影響力・発言力が大きくなると予想される個人の活動内容や発信しているメッセージについて調査(40代までを対象)
- 国内外の各種アワード受賞歴等の現存する複数のリスト収集
 - 例: Young Global Leaders (WEF), Young Scientists (WEF), Innovators Under 35 (MIT Technology Review)...
- 有識者へのアンケート調査等により国内で174名、国外で81名を「ビジョナリー」としてリスト化
- 対象者の多様性(分野・職業・性別など)を考慮しつつ、インタビュー対象者を導出し、8名(国内)にインタビューを実施
- この他、国内外10名ずつを対象として言説概要を文献調査

キーワード、コンセプト(例)

Better Co-being, 人新世, 脱成長, 社会問題解決, Web3, デジタル・ウェルビーイング, 人間と自然, SFと歴史, 多様性と仕事, 仏教と医療, AIと多様性, 未来の考古学, 「冗長性」, マイクロファイナンス, 産業DX, 教育のDX, 農業の自産自消, 科学と芸術, 行政のDX, アルゴリズムの正義, GIVE & TAKE, マイノリティと社会的圧力, AIと農業, デジタルピル, 市民主導の公共サービス, 量子ネットワーク, ロケット, 正義と人間の尊厳を促進する建築, 生成AI



第12回調査から導かれた6つのビジョン

①



ありのままや多様性・違いを認め合い、他者への尊敬と共感により支え合っている社会

②



人や地域が縦横無尽につながり、未知や想定外の発見と学び・遊び・挑戦に溢れる社会

③



生存に不安がなく、人に寄り添い人を幸せにする科学技術で余白・余裕が生まれている社会

④



人にも地球にもやさしい、ありたい暮らし・生き方を自分たちでつくれる社会

⑤



社会制度・慣行を時代に応じて見直し更新する柔軟性を持った社会

⑥



地域の文化・歴史観・自然観を継承する共同体の叡智と美学に基づく社会

24の下位ビジョン

1. ありのままや違い・多様性を認め合い、他者への尊敬と共感により支え合っている社会

1a. 曇りなき眼で偏見ない人に溢れ、違いや多様性を認め合うことで、誰もが疎外感や社会的抑圧から解放されている社会

1b. 高い倫理観を持ち、偏見のない形で科学技術の推進により多様性と社会参加が促されている社会

1c. 全ての人・ものを尊重し、深いやさしさと共感により他者に幸せをもたらそうとする利他的な社会

1d. 属性や違いを気にしなくなり、対等な立場で支え合って物事に取り組む社会

2. 人や地域が縦横無尽につながり、未知や想定外の発見と学び・遊び・挑戦に溢れる社会

2a. 未知や想定外への遭遇と好奇心により、人のポテンシャルを活かし広げる挑戦に溢れる社会

2b. 創造性や人を楽しませることが人の営みの中心となる社会

2c. いつでもどこでも何度でも、好きなように学び人生を設計でき、新たな考え方を持つ能動的な人材が活躍する社会

2d. 立場・属性・国境を超えて人・知識・場・応援・感謝がつながり、未来をつくる挑戦をし続けている社会

3. 生存に不安がなく、人に寄り添い人を幸せにする科学技術で余白・余裕が生まれている社会

3a. 食料問題・貧困問題やエネルギー問題が解決された、飢餓のない社会

3b. 病気や障害、ライフイベントが制約とならず、健康に生き、死を迎えられる社会

3c. 経済基盤が安定化し社会システムへの信頼が向上している社会

3d. 人に寄り添い優しい科学技術が生活を支えている社会

3e. 人間の身体性・感性を活かしながらAI・ロボットとの共生・協働が実現している社会

3f. 生活の質の向上により、心と時間の余裕・余白が生まれている社会

4. 人にも地球にもやさしい、ありたい暮らし・生き方を自分たちでつくれる社会

4a. オープンなデータや科学技術により全人類に利益がもたらされている社会

4b. 考えやアイデアを簡単に形にして発信でき、真に自分らしい暮らし・生き方を探求する社会

4c. 住む場所・言葉に縛られず、どこでも自律的に仕事・生活ができる社会

4d. 無関心が打破され個々人が社会を変える活動に参加する社会

4e. 個々人の幸せと持続可能性が両立する人と自然が共生する社会

5. 社会制度・慣行を時代に応じて見直し更新する柔軟性を持った社会

5a. 資本主義的価値観から脱却し「足る」を知る脱成長社会

5b. 既存の社会制度・慣行などによる自己制約が見直され変化に対応している社会

6. 地域の文化・歴史観・自然観を継承する共同体の叡智と美学に基づく社会

6a. 地域の文化・歴史観・アニミズムの継承により固有性・独自性を持つ魅力が発揮されている社会

6b. 共同体の叡智や正義と尊厳に基づき人間的な地域・価値観が形成されている社会

6c. 美意識と美学の追求により実現される「美しい」社会

描かれたビジョンの特徴

■ 基本的な生存ニーズ

■ 個々人の生き方・暮らし方

- ◆ 固定的な属性からの解放・ありのままを認め合う
- ◆ 好奇心・挑戦・創造性・楽しさの追求
- ◆ 真に自分らしい生き方・暮らし方
- ◆ 心と時間の余裕・余白
- ◆ 個の力の強化・社会参画

■ 他者とのつながり・関係性

- ◆ 質の高いつながり
- ◆ 利他主義、やさしさ、共感に溢れる

■ 社会のかたち・あり方

- ◆ 多様性・包摂性
- ◆ 地域性・自律性・分散性
- ◆ 新たな教育
- ◆ 挑戦を応援しあう、何度でも失敗できる
- ◆ 資本主義的価値観からの脱却
- ◆ 社会として冗長性・柔軟性を持つ
- ◆ 個々人の幸せと持続可能性の両立

■ 過去・現在・未来のつながり

- ◆ 地域の文化・歴史観・自然観の継承
- ◆ 日本らしさを強みに変える

- 人類の**幸福**と社会の**福祉**のための科学技術
- 紛争や差別を引き起こすのではなく、社会の**多様性と包摂を促がす倫理的**な科学技術
- **人類全体の利益と個々人の能力強化**のために、**オープンな**精神で開発される科学技術
- 特定の企業や国に独占されるのではない、**自律的・分散的な**科学技術
- 人間の生活や社会を脅かすのではなく、人間に**寄り添う・調和する**AIやロボット

■ ビジョニングに誰が参加したか？

- ◆ 限られた規模(参加者数)ではあったが、初めて市民(非専門家)とビジョンを共創した
 - ・ 若者世代が中心であり、特に20代の女性の割合が多い
- ◆ (これまでのNISTEPのビジョニングは、主に研究者から引き出されたものであり、起こりうる社会的・技術的变化をベースとしたものが多かった)

■ 共創と価値観

- ◆ 参加者が、「私たち」が望むビジョンを描くために、参加者を未来の共同創造者とする工夫
- ◆ 個人の未来に対する「願望」は、個人や社会の価値観と結びついている
 - ・ WSでの参加者の価値観を反映させるためのプロセス(例:個人史を振り返るためのタイムライン、内省・対話を通じた価値観の抽出、非言語化イメージの視覚化等)
 - ・ ありがちで使い古されたビジョンに影響されすぎないように、スキャンニング資料は使用しなかった。

■ 内面の豊かさなど精神性を重視するビジョンが多い

- ◆ 日本らしさ、伝統、良さを継承しつつも、既存の固定的な役割分担や世代間・所属間の断絶を克服し、過剰な効率化や競争ではなく、社会における優しさ、調和、質の高いつながりを求めている。
- ◆ 無理をせず、「ありのままの自分」でいられることを大切にしている。
- ◆ 固定的なコミュニティやコミュニケーションではなく、予期せぬ偶然の出会いや、個人や社会の無駄や余白を活かすことに価値を見出しています。
- ◆ 科学技術の発展から人間が取り残されることを危惧し、倫理的AI／仲介AIなど、人間に寄り添う科学技術を望んでいる。

■ (技術で可能なことをベースとして作られたビジョンと比べると) エッジやエキセントリックさはなく、より地に足のついた、個人の価値観に沿ったものとなった

■ ウェルビーイングやSDGs等と親和性高い

(参考)多次元の未来のウェルビーイング概念へのマッピング

社会

持続可能性

4e. 個々人の幸せと持続可能性が両立する人と自然が共生する社会

6a. 地域の文化・歴史観・アニミズムの継承により固有性・独自性を持つ魅力が発揮されている社会

6b. 共同体の叡智や正義と尊厳に基づき人間的な地域・価値観が形成されている社会

6c. 美意識と美学の追求により実現される「美しい」社会

安定性とダイナミズム

3c. 経済基盤が安定化し社会システムへの信頼が向上している社会

5a. 資本主義的価値観から脱却し「足る」を知る脱成長社会

5b. 既存の社会制度・慣行などによる自己制約が見直され変化に対応している社会

コミュニティ

多様性 & 包摂性

1b. 高い倫理観を持ち、偏見のない形で科学技術の推進により多様性と社会参加が促されている社会

2d. 立場・属性・国境を超えて人・知識・場・応援・感謝がつながり、未来をつくる挑戦をし続けている社会

社会的関与

4d. 無関心が打破され個々人が社会を変える活動に参加する社会

1a. 曇りなき眼で偏見のない人に溢れ、違いや多様性を認め合うことで、誰もが疎外感や社会的抑圧から解放されている社会

つながり

1c. 全ての人・ものを尊重し、深いやさしさと共感により他者に幸せをもたらそうとする利他的な社会

1d. 属性や違いを気にしなくなり、対等な立場で支え合って物事に取り組む社会

個人の成長 / 能力 / いきがい

2a. 未知や想定外への遭遇と好奇心により、人のポテンシャルを活かし広げる挑戦に溢れる社会

2b. 創造性や人を楽しませることが人の営みの中心となる社会

2c. いつでもどこでも何度でも、好きなように学び人生を設計でき、新たな考え方を持つ能動的な人材が活躍する社会

4a. オープンなデータや科学技術により全人類に利益がもたらされている社会

4b. 考えやアイデアを簡単に形にして発信でき、真に自分らしい暮らし・生き方を探求する社会

個人

ライフスタイル

4c. 住む場所・言葉に縛られず、どこでも自律的に仕事・生活ができる社会

3f. 生活の質の向上により、心と時間の余裕・余白が生まれている社会

3d. 人に寄り添い優しい科学技術が生活を支えている社会

健康 / 身体

3e. 人間の身体性・感性を活かしながらAI・ロボットとの共生・協働が実現している社会

3b. 病気や障害、ライフイベントが制約とならず、健康に生き、死を迎えられる社会

基本的な生存ニーズ

3a. 食料問題・貧困問題やエネルギー問題が解決された、飢餓のない社会

■課題

- ◆市民参加の規模・多様性・代表性
- ◆結果として得られたビジョンにおける合意形成
- ◆手法の検証・更新

■次のステップ:シナリオ作成

- ◆ビジョニング結果をバックキャスト探索の起点に

■社会全体で、能動的な未来構想・創造力をいかに につくることができるか



ご清聴ありがとうございました。

第12回科学技術予測調査シナリオワークショップ（WS）（内閣府総合知WSとの合同により開催）

～Pathways to 2045/55：ビジョン実現のための道のりの探索～

詳細: <https://www.nistep.go.jp/archives/59349>

20-30年後に社会の主役となる若者世代の価値観を踏まえた未来への願望―「ありたい」社会像―を起点として検討を開始

包摂性・多様性・利他性に基
づき自然・文化が調和する地
域社会（絆）

ダイナミズム・チャレンジにあ
ふれる変革する社会（稲妻）

誰もが自律度高く民主的に参
加し自分らしさと創造性を発
揮できる社会（航海）

安心と生活の質を高める、ゆと
りある強靱な社会（オアシス）

専門家（研究・政策・産業）WSと市民・若者WSによりシナリオを作成し、政策担当者らと対話

